

□議員名：吉永美子

1 障害者への支援について

論点	平成25年3月議会で、4月から障害者優先調達推進法が施行されることを受け、市の考えを聞いたが、その後の状況を確認する。
回答	毎年、障害者施設からの物品等の調達の推進を図るための方針を作成し、市のホームページで公表している。市内の障害者就労施設に対して物品や役務の提供内容について調査し、その結果を取りまとめた一覧表を作成し、庁内の各部署に優先調達の依頼を行っている。

論点	今後の予定を聞く。
回答	障害者就労施設の受注拡大ができるよう役務の提供可能な字句の記載や、物品や役務の内容が分かりやすい優先調達一覧表に変更し、翌年度予算の準備時期に間に合うように庁内の各部署に優先調達の依頼を行っていく。

論点	障害者就労施設内にある就労部会を窓口として、具体的な投げかけをすることによって、優先調達が進むのではないか。
回答	できる範囲で、市としても努力はしていきたいと考えている。

論点	昨年の12月議会でオストメイトが使用する排せつ管理支援用具の給付基準額が長年増額されていないことから、実態に合っているのか聞いた際に、「排せつ管理支援用具を含む日常生活用具に係る給付基準額の見直しの必要性を考慮するため、県内市町に対して調査した結果を踏まえて検討する」といった旨の答弁があったが、その後の検討状況を聞く。
回答	排せつ管理支援用具のうち、蓄便袋、蓄尿袋、紙おむつについては、毎日使用する消耗品であり、給付者数が多いことから、より利用者の実態に即した調査が必要と判断し、別途、令和6年3月から4月までの給付実績を基に1人当たりの1か月平均負担額を算出している。排せつ管理支援用具の給付基準額については蓄便袋、蓄尿袋、紙おむつの3品目は増額し、男性用収尿器は現状維持、女性用収尿

	器は減額する方向で調整をしている。
--	-------------------

2 山陽オート事業関係者への支援

論点	市職員の対応が冷たい時代にあっても、受託会社や選手は、公共施設初のAED設置救急ステーションとなったり、ボランティアで河川清掃に参加したり、エコバッグの贈呈やふるさと納税を行うなど、市に対して多大なる貢献を行ってきたが、今後、どのようにオート関係者を支援していくのか。
回答	少しでも多くの委託料や収益保証を確保するために売上げの増大、そしてファンサービス、経費削減等への施策についても本市も一丸となって協力をし、難局を乗り切るためのよきパートナーとして、さらに信頼を深めていきたいと思っている。また選手からいただいた支援や協力の内容については、引き続き広報紙や山陽オートレースのホームページ、JKAのホームページ、CS放送、場内インフォメーション、出走表、新聞など、少しでも多くの媒体を通じて関係者の活躍をPRしていきたいと思う。特に市内在住の皆様にはオートレース事業は本市のために様々な分野で役立っているということを発信していきたい。

3 いじめ対策及びひきこもり支援の強化について

論点	いじめの早期発見、早期対策について具体的にどのように行動しているのか。
回答	早期発見については、週1回実施する生活アンケート、教育相談以外にも日常的な観察、様子がおかしい場合は子供の話を呼んで聞くなど、さらに複数教員による子供の見守り、養護教諭、スクールカウンセラーとの連携で早期発見に努めている。早期対応については、そういう事実があったら、まず教員一人で抱え込むことなく、情報を教員同士で共有し、いじめ被害に遭った子供からの聞き取り、そうしたことを中心に行い子供に寄り添いながら対応していく。

論点	ひきこもり支援の現状と今後の展開予定はどのようなになっているのか聞く。
回答	ひきこもり支援については、市の保健師による支援に加え、経験豊

	富なNPO法人に事業の一部を委託することで、民間のノウハウを活用しながら効果的に推進している。昨年は関係課や関係機関に向け、主に支援する側の課題把握や相談窓口の周知を兼ねた実態調査を行った。この中で一定数のひきこもりの方の実態が把握できたほかに、支援する側も、ひきこもりの心配がある方を把握してもその支援方法が分からない、どこにつないでいいのかが分からないなどの課題も見えてきたため、支援者向けの研修会を実施したほか、保健師が、より専門的なひきこもり支援方法を学ぶ研修会に参加するなど、支援体制のさらなる充実にも努めている。今後も庁内関係部署を加え外部団体との連携を深めながら、ひきこもり当事者やその家族をしっかりと支援できる体制づくりを進めていきたい。
--	--

4 市有財産の活用について

論点	埴生小学校跡地及び敷地内の体育館の活用について、どのように考えているのか聞く。
回答	校舎解体の後、検討委員会で協議を行っているが、現在までに明確な方針を得るには至っていない。避難場所としていた旧埴生小学校体育館については、埴生地域交流センターが現在の位置に新築で開館しており、こちらを優先的に利用するということから避難場所としての使用は取りやめている。

5 防災士の育成について

論点	防災士の育成にどのように尽力してきたのか、また、今後推進するに当たり新たな手法は考えられないか。
回答	自主防災組織や各地区セーフティーネットワーク、地元防災士会などの総会や定例会といった会合に積極的に参加させていただき、平時からの情報交換などを努めていきたいと考えている。

論点	資格取得の公費補助（現在1万円）の見直しについて考えを聞く。
回答	公費の補助については、広く防災士になっていただきたいという観点から、現在のやり方を継承させていただきたいと考えている。

論点	避難所運営については女性の関わり方が大切なことから、避難所運
----	---------------------------------------

	営マニュアルに、この点をどのように明記しているか。
回答	マニュアル等はないが、職員の場合には避難所においても2名1組の体制で、基本男女になるような形での避難所運営は心がけている。

論点	地域防災会議の委員は35人中女性が4人ということだが、女性防災士を委員に取り入れる考えはあるか。
回答	現在のメンバーで当面はしていきたいと考えているが、そういった意見もあったことは今後の参考にしたいと思う。